

学校図書館活性化ソフト

# 情報BOX

## ライブラリースーチ

Version6

ファーストステップガイド  
インストールガイド

Windows 8 対応版

V6.0.42



こどもを、みらいを、考える。

# 教育システム

<http://www.gakkou.jp>

## 目次

動作運用環境 .....	4
対応 OS .....	4
ローカルコンピュータでの権限について .....	4
ディスプレイ .....	5
プリンター .....	5
バーコードリーダー .....	5
ネットワーク .....	5
バックアップ装置 .....	6
書店等とのファイル利用/蔵書データテキスト読み込みについて .....	6
運用形態の確認と多様性 .....	6
UAC 等無効化について .....	6
セットアップと起動 .....	10
インストールの手順 1 台のコンピュータで運用する場合 .....	10
インストールの確認 .....	15
インストール後設定 .....	16
ログイン画面 .....	16
学校設定 .....	17
JBOX 運行管理プログラム .....	18
自動起動について .....	19

バックアップファイル自動転送について.....	19
バックアップファイルの自動転送ルール.....	21
削除されるファイルのルール.....	21
ネットワーククライアント追加の設定.....	22
情報 BOX のアンインストール.....	25

# インストールガイド

## 動作運用環境

### 対応 OS

Windows XP Home Edition, XP Professional Edition SP 2 以上, Windows VISTA, Windows 7, Windows8 各シリーズ

Windows 2003 Server, Windows 2008 Server, Windows 2008 Server R2, Windows 2012 Server

最新動作環境は弊社 web サイトでご確認ください。 [http://www.gakkou.jp/jbox6/jbox\\_op.pdf](http://www.gakkou.jp/jbox6/jbox_op.pdf)

最新情報は弊社 web サイトでご確認ください。 <http://www.gakkou.jp/>

### ローカルコンピュータでの権限について

#### 1. インストール時

管理者権限がなければインストールできません。(ドメイン管理者ではなくローカル管理者です。)

#### 2. 自動バージョンアップ

管理者権限、制限ユーザーどちらでも運用可能です。

高度なセキュリティを施した場合は、制限ユーザーで運用できない場合もあります。高度なセキュリティの環境下でお使いの場合はコンピュータのセキュリティ管理者にご相談ください。

#### 3. 情報BOX 操作

管理者権限、制限ユーザーいずれでも動作しますが、管理者権限での運用を Microsoft も推奨しております。また、インストールフォルダへの書き込み権限が必須となるので Windows VISTA、7 をお使いの場合注意してください。

#### 4. 自動バックアップ

情報 BOX では自動バックアップ機能が設定できます。情報 BOX ランチャから設定してください（当インストールガイド 18P）。この場合は「保存先のディレクトリ」に書き込み制限が必要です。ネットワークドライブを利用するときは権限に特に注意してください。

---

## ディスプレイ

1024×768（XGA）以上の解像度必須 256色以上の表示（小さいフォント）で使用。

小さいフォント以外ではボタンの位置などがずれ、ご利用いただけません。

---

## プリンター

Windows OS 対応の A4 以上が印刷可能なプリンター。

バーコードラベルの印字にはレーザープリンターまたは RICOH の GELJET プリンター（きれいモード）を推奨。一般的なインクジェットプリンターでバーコードを印字すると経年劣化で読み取りができなくなることがあります。

10桁以上のバーコードをご利用頂く場合はバーコードの線が細くなり、読み取りが難しくなります。桁数が多い場合はレーザープリンターをお勧めします。

利用者カードや賞状がカラーで印字可能なため、カラープリンターを推奨します。

---

## バーコードリーダー

キーボード（PS/2等）、USB 接続

キーボードインターフェースで使用可能な機種

CODE39 および NW-7 読み取り可能なこと

バーコードラベル読み取り後、CR 付加設定を行うこと

NW7 スタートストップキャラクター 非送信設定

CODE39 スタート/ストップコード 非送信設定

---

## ネットワーク

MARC ダウンロード機能にはインターネットの常時接続が必須です。クライアントサーバー利用時 TCP/IP 接続

日書連 MARC 利用およびオプションのライブラリーサーチ利用にはインターネット接続が必須です

※ インターネット接続は http 通信です。PROXY サーバーの設定が必要な場合があります。またコンテンツフィルタリング（有害ページ排除）設定により通信が出来ない場合があります。教育委員会や校内のシステム管理者にお問い合わせください。

---

### バックアップ装置

50MB 以上保存可能な外部記憶装置必須（USB メモリーや HDD ドライブ等）または認証後のネットワークドライブ（UNC パス指定可能）

---

### 書店等とのファイル利用/蔵書データテキスト読み込みについて

書店システム【本屋ツール】で作成したテキストデータを読み込むことで、図書館では蔵書引き当ての必要がなくなり便利になります。【司書ツール】での引き当てデータも同様に読み込みが可能です。

---

### 運用形態の確認と多様性

情報 BOX は 1 台のパソコンで運用することも、複数台のパソコンでネットワークを構築して運用することもできます。ただし、複数台で運用するためには、情報 BOX 校内追加ライセンスまたはまるごとパックの購入が必要です。追加ライセンスの購入することなく複数台で運用を行うことは使用許諾違反となりますのでご注意ください。

有償オプションのライブラリーサーチを利用すると台数の制限なく Web ブラウザで検索ができます。

また、教育センター等にサーバを設置し複数校のデータをまとめて運用することもできます。（別途構築検討が必要です。）

---

### UAC 等無効化について

Windows Vista 以降の OS に実装されているユーザー・アカウント制御（User Account Control 以下 UAC）は、ウイルスや不正な操作、操作ミスなどによって、管理者権限が必要なプログラ

ムなどが自動的にシステムにインストールされてしまうのを防ぐための機能です。この機能は通常は望ましいものですが、操作の妨げになるメッセージが現れる場合が多く、また UAC のせいでシステムの操作や設定作業などに支障をきたす場合があるので、本システムでは無効にして運用する必要があります。

## Windows Vista における UAC の無効化手順

管理者権限を持つユーザー・アカウントで Windows にログオンします。

[コントロール パネル] で [ユーザー アカウント] アプレットを表示させます。

Windows Vista： [ユーザー アカウントと家族のための安全設定] - [ユーザー アカウント]



この画面の一番下にある [ユーザー アカウント制御の有効化または無効化] をクリックして設定を変更します。

UAC の有効化／無効化の設定ダイアログ・ボックス が現れます。UAC はデフォルトでは有効になっていますが、このチェック・ボックスで変更できます。無効にしてください。

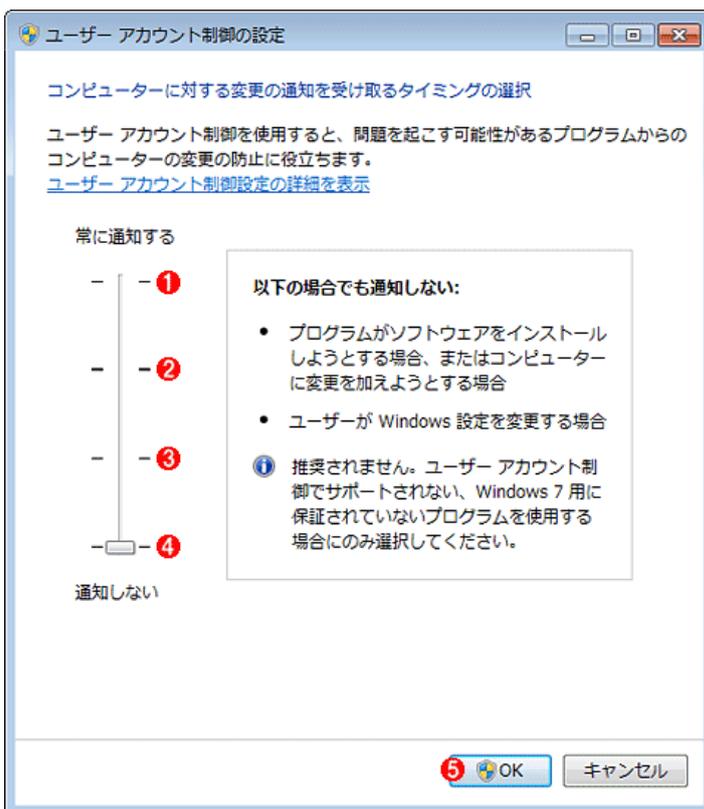
## Windows 7 における UAC の無効化手順

管理者権限を持つユーザー・アカウントで Windows にログオンします。次に [コントロール パネル] で [ユーザー アカウント] アプレットを表示させます。

[ユーザー アカウントと家族のための安全設定] - [ユーザー アカウント]



この画面の一番下にある [ユーザー アカウント制御設定の変更] をクリックして設定を変更します。



UAC の設定ダイアログ・ボックス

UAC の設定には 4 段階あり、デフォルトでは Windows に含まれないプログラムに対してオン①になっています。完全に無効とするには、スライダのつまみを④まで下げます。OK⑤をクリックします。

### 重要なご注意

- 瞬快等の環境復元ソフトが導入されている場合は必ずシステム管理者に事前に確認して、適切なユーザー、環境でソフトのインストールを行ってください。環境復元ソフトではインストールフォルダ（デフォルト値 c:\jbox）およびデータベースフォルダ（デフォルト値 c:\Program Files\PostgreSQL）では復元を行わないように設定してください。
- 必ずそのコンピュータの管理者権限をもつユーザー（ローカル管理者）でログオンしてください。
- 他に postgresSQL を利用したソフトがインストールされている場合はインストールできません。教育システム サポート窓口へご相談下さい。
- OS のアップデートが出来ていない PC ではインストールに失敗する場合があります。必ず Windows Update を行ってからインストールしてください。

## セットアップと起動

### インストールの手順 1 台のコンピュータで運用する場合

情報 BOX を起動するにはコンピュータにソフトをインストール（セットアップ）する必要があります。

ここではセットアップと接続テストの方法を解説したあと、情報 BOX を起動する方法について説明します。

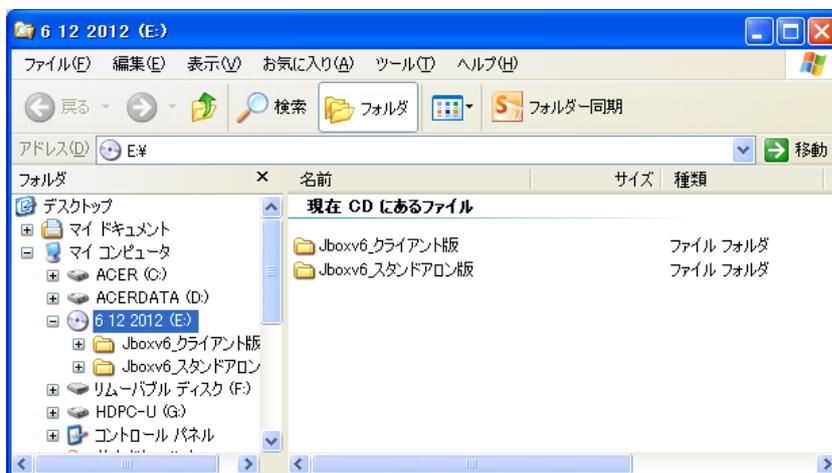
正常にインストールできない場合、ほとんどの原因は、OS のバージョンとセキュリティパッチの問題です。コンピュータの動作環境及び UAC の無効設定を確認してください。

OS が不調な PC での運用は計画を変更して別の PC をご用意いただくか、Windows のクリーンインストール（HDD フォーマットまで）を行ってください。CPU 速度よりもクリーンな OS とメモリー増量が安定した動作の必要条件です。

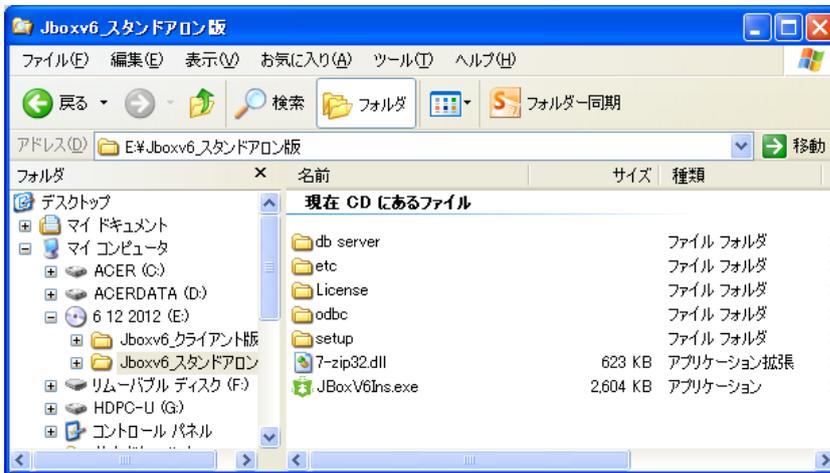
例) OS が VISTA の場合ですが XP/7 でもほぼ同様です。

CD-ROM ドライブに情報 BOX インストール CD を入れて開くと以下のフォルダの中に「情報 BOXV6\_スタンドアロン版」と「情報 BOXV6\_クライアント版」（追加ライセンスがある場合のみ）があります。

自動的に開かない場合は [マイコンピュータ] から CD ドライブ（DVD ドライブ）を選択してください。



フォルダ「Jboxv6\_スタンドアロン版」を開いて下さい。

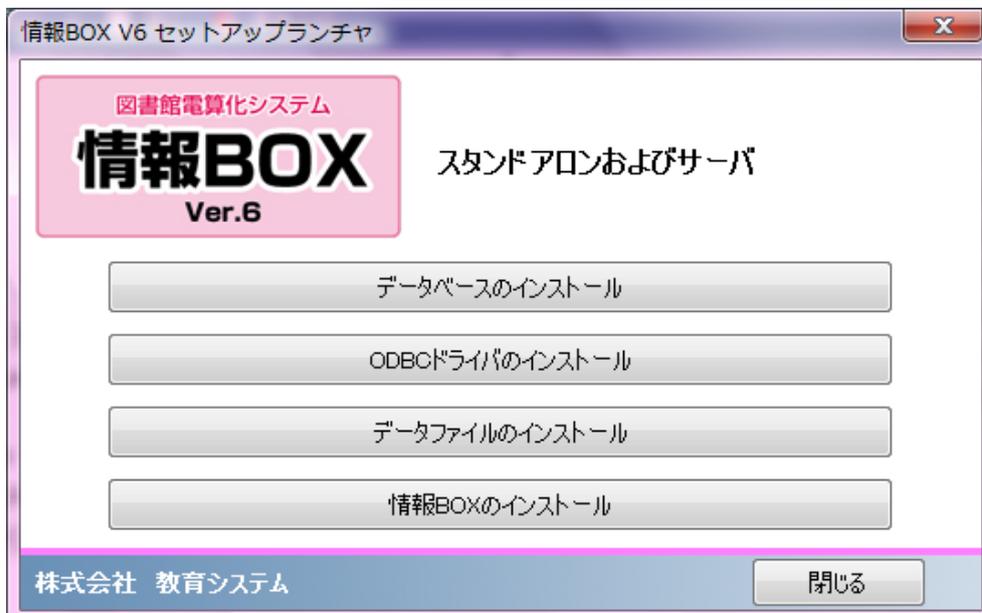


フォルダ内の



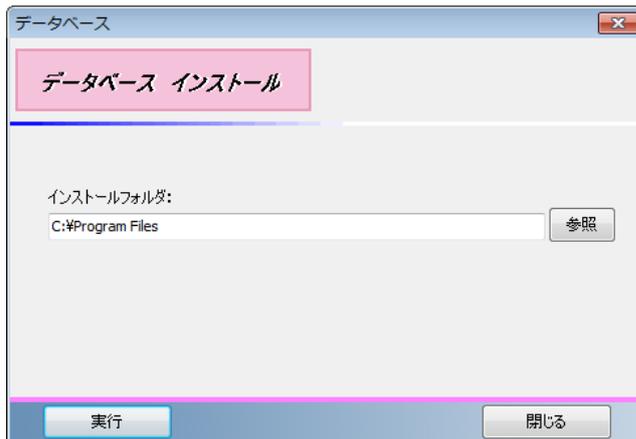
をダブルクリックしてインストーラを起動してください。(V6.0.41 までは JBoxIns.exe でした)

次のようなメニューが現れます。

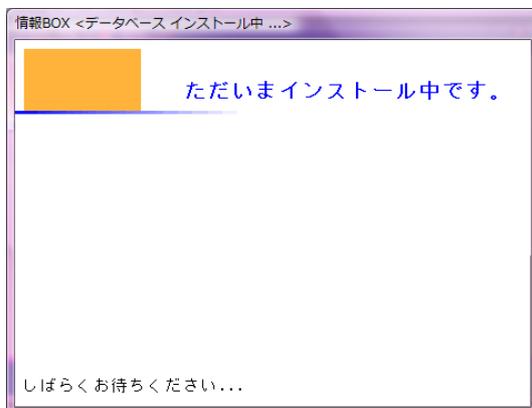


上から順に3つのインストール作業を行います（「データベースのインストール」と「ODBCドライバのインストール」は同時に2つ行われます）。

「データベースのインストール」をクリックするとデータベースのインストールが始まります。インストールフォルダは特別な理由がなければそのままにしてください。実行をクリックします。



インストール中は下の画面のまま数分かかります。

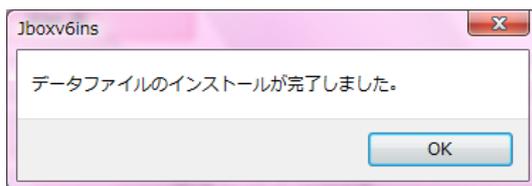


「データベースのインストール」後は以下ようになります。続いて「データファイルのインストール」と「情報BOXのインストール」を行ってください。

インストールが終わったメニューは薄く表示されクリックできなくなります。



次にデータファイルのインストールをクリックします。しばらくすると、

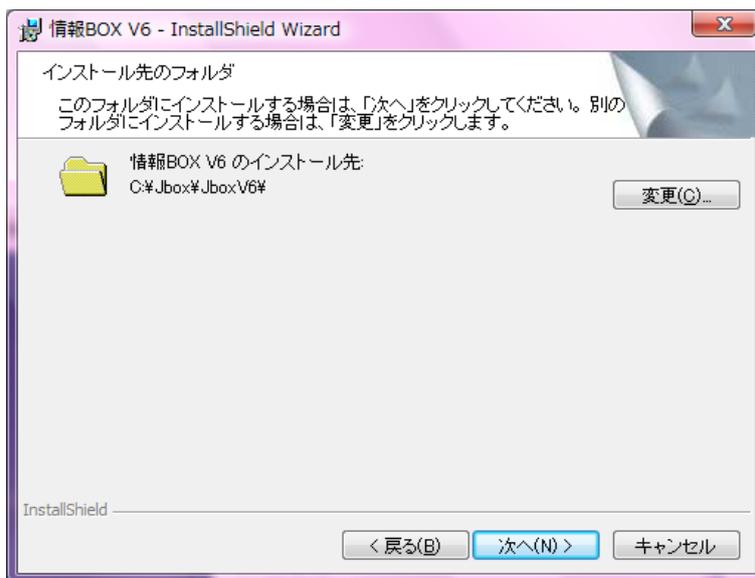


が表示されデータファイルのインストールが完了します。

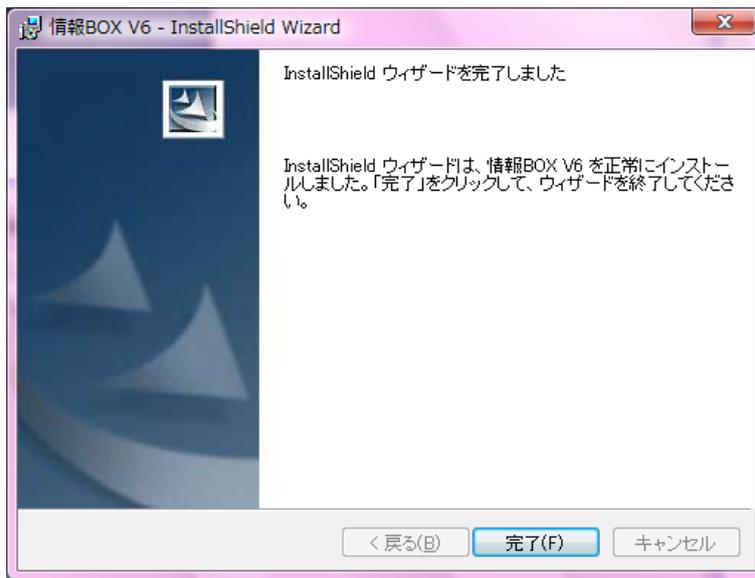
情報BOXのインストールをクリックすると以下の様なウィザード画面が始まります。終わったら完了を押してください。



インストールフォルダは特別な理由がなければそのままにしてください。「次へ」をクリックします。



しばらくすると、インストールが完了します。



4つのインストールボタンすべての表示が薄く [〇〇のインストール済み] となればインストール作業終了です。

#### インストールの確認

正常にインストールされるとコントロールパネルの[プログラムの追加と削除] (XP の場合) VISTA では[プログラム] 7では[プログラムと機能]には一般的に以下の3項目が増えます。

 PostgreSQL 9.0	PostgreSQL Global Development...
 psqlODBC	PostgreSQL Global Development...
 情報BOX V6	株式会社 教育システム

ソフトインストール後これらが表示されていない場合は正常にインストールできていません。多くの場合、OS のバージョンとセキュリティパッチの問題です。コンピュータの動作環境をよく確認してください。また、OS 自体の動作が不安定な PC での運用は不適です。

## インストール後設定

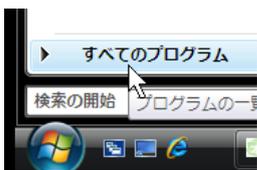
### ログイン画面

必ず教育システム発行の使用許諾証を準備して図書館コード、パスワードがわかるようにしておいて下さい。

情報 BOX を起動します。



デスクトップ上のアイコンをクリックするか



[スタートボタン] - [すべてのプログラム] - [情報 BOX V6] - [JBOX]

をクリックすることで情報 BOX が起動します。

ログイン画面が現れます



初期の管理者パスワードは ① です。クリックまたはキーボードから 1 を入力して、「OK」をクリックしてください。以下のメニューが現れます。



## 学校設定



の [設定ファイル更新] をクリックすると、以下の画面が出ます（初回自動的に出ることもあります）。スタンドアロン&サーバへのインストールの場合は空白のままがかまいません。

### 設定ファイル更新

[もどる \[F12\]](#)

接続設定

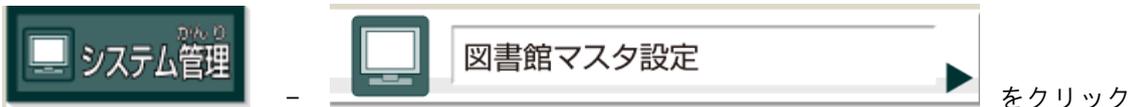
サーバ名

「自動ログイン」「その他の項目」はサーバに接続後に設定可能になります。

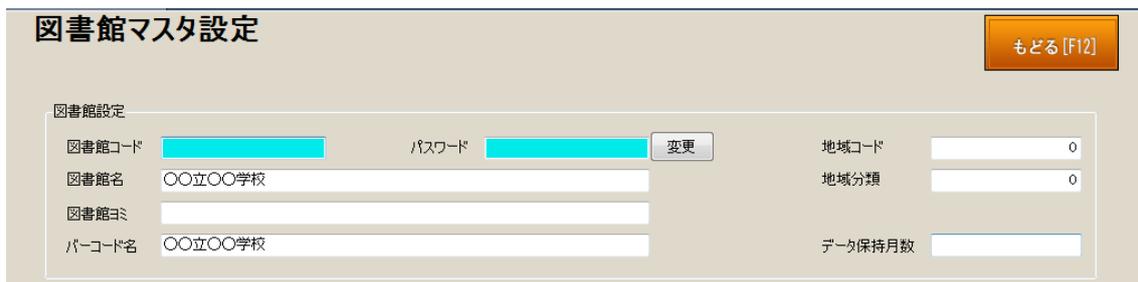
自動ログイン

ログイン画面  認証する

追加端末にインストールする場合はサーバ名の覧にデータベースプログラムをインストールした PC の[ホスト名] または [IP アドレス]を入力します。不明な場合は必ずネットワーク管理者に確認してください。



をクリックします。すると次の画面が現れるので

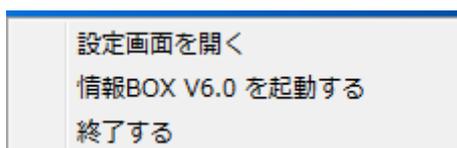


マニュアルとともに発行されるライセンスシート記載の学校コードとパスワードを入力して変更 ボタンを押してください。パスワードは大文字小文字を区別します。

## JBOX 運行管理 プログラム

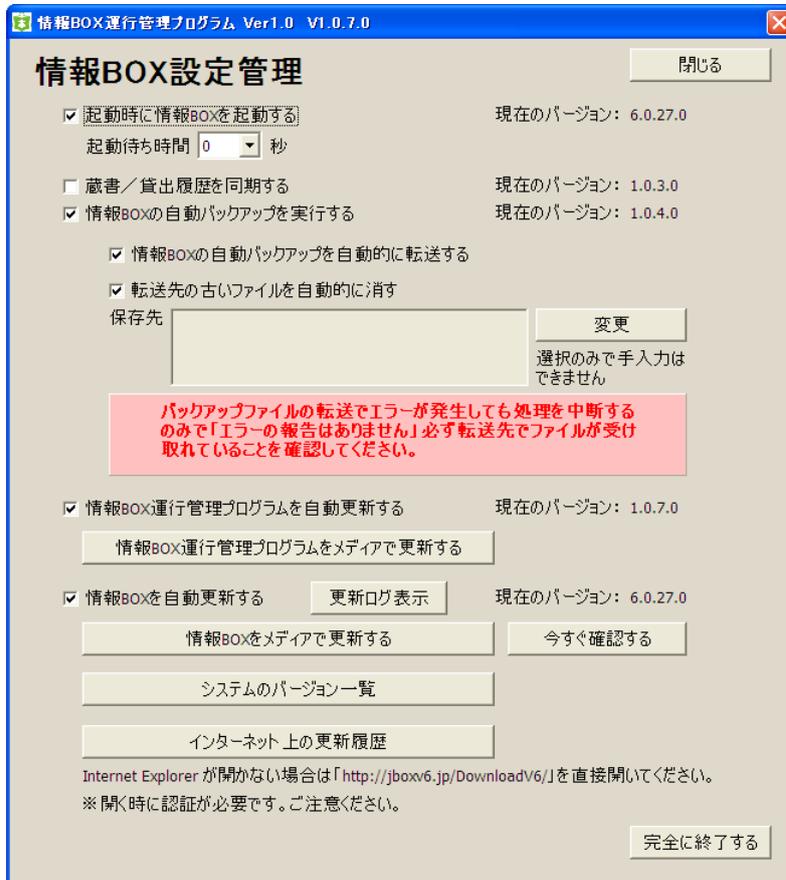
運行管理プログラム（ランチャー）は情報 BOX のバージョンアップや自動起動設定、バックアップといった業務を制御するプログラムです。

タスクバーの右端の常駐プログラム一覧に  マークが現れます。これが情報 BOX 運行管理プログラム（ランチャー）で、情報 BOX の運用を司ります。このマーク上でマウスを右クリックすると



という画面がでます。

設定画面は以下の通りです。



## 自動起動について

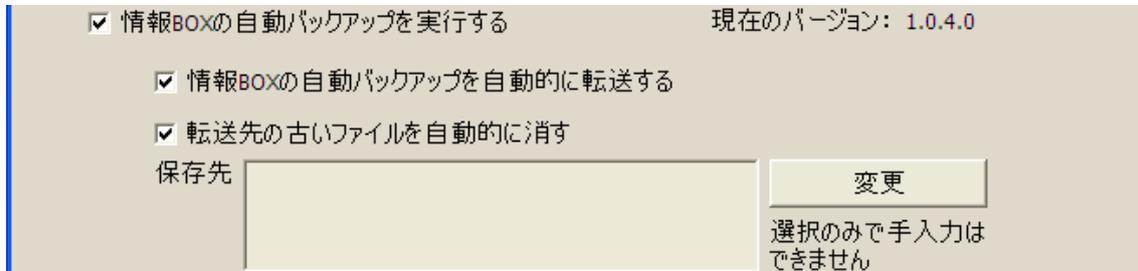
**起動時に情報BOXを起動する** にチェックを入れると OS のログオン時に情報BOX が起動します。図書館で利用する場合はこの機能が便利です。

自動起動させたくない場合はチェックを外してください。

起動待ち時間設定は、データベース起動前に情報BOX が立ち上がってしまう場合、設定してください。

## バックアップファイル自動転送について

情報BOX 起動時に自動的にバックアップを作成し、そのバックアップファイルを保存先に指定したフォルダに転送（コピー）する機能を持ちます。



情報BOXの自動バックアップを実行する 現在のバージョン: 1.0.4.0  
 情報BOXの自動バックアップを自動的に転送する  
 転送先の古いファイルを自動的に消す  
 保存先  変更  
選択のみで手入力できません

PC 本体が故障した場合、ローカルドライブ（C または D）に転送（保存）してあっても、無意味です。一般的な保存先にはリムーバブルディスクやサーバのネットワークドライブを想定しております。

保存先の設定はエクスプローラーでの設定で行い UNC パスやドライブレターの直接入力できません。

また、認証済みのドライブへの保存ですから、予め ID PW で保存場所への書き込み権限があることを前提とします。

転送先の古いファイルを消すにチェックを入れると、以下のファイルを自動的に削除するので、そのドライブまたはメディアが一杯になることを防止できます。

#### ※自動バックアップに関するご注意

この自動バックアップはあくまでトラブル時の復旧作業用の補助機能です。自動バックアップに失敗した際の対策は取られていません。各年度や学期での**手動バックアップ**は**必ず実施**して下さい。

自動バックアップのタイミングに関しては動作中に自動的に行われ、バックアップタイミングの調整はできません。また、自動バックアップは起動後に実行され、自動転送は10分後に実行されます。

**短時間20分以下の起動時間ではバックアップファイルの作成や自動転送は行われません。**

ご注意ください。

## バックアップファイルの自動転送ルール

バックアップファイルの自動転送はランチャー（情報 BOX 運行管理プログラム）が常駐している場合にのみ動作します。定期的に保存先を監視して「今日作成したバックアップファイル」の転送を試みます。リムーバブルディスクを指定した場合は、必ずメディアにアクセスできる状態にしたままでお使い頂くことをお勧めします。またメディアを取り外す場合は、必ず「メディアの取り扱い説明書に指定された方法」で取り外してください。USB メモリ等でバックアップ処理を行っている最中に抜き取った場合は、USB メモリのデータを喪失させる場合があります。ご注意ください。

## 削除されるファイルのルール

削除はシステムが自動的に付けたファイルが対象です。

バックアップファイル名は「JboxV6R1\_yyyymmddHHMMss.jpz6」となっており「yyymmdd」が年月日で 2008/7/1 であれば 20080701 の様になります。「HHMMss」は時刻で 24 時間表示になっています。

自動削除は

- 6ヶ月以上前に作られたバックアップファイル
- 同じ月の直近7日以外のバックアップファイル

が対象になります。結果としては6ヶ月以内の毎月の最後に起動した一週間分が残ることになります。ただし、起動時にバックアップファイルを作成しますので毎日起動しない場合はファイルの保存数が減少します。

## ネットワーククライアント追加の設定

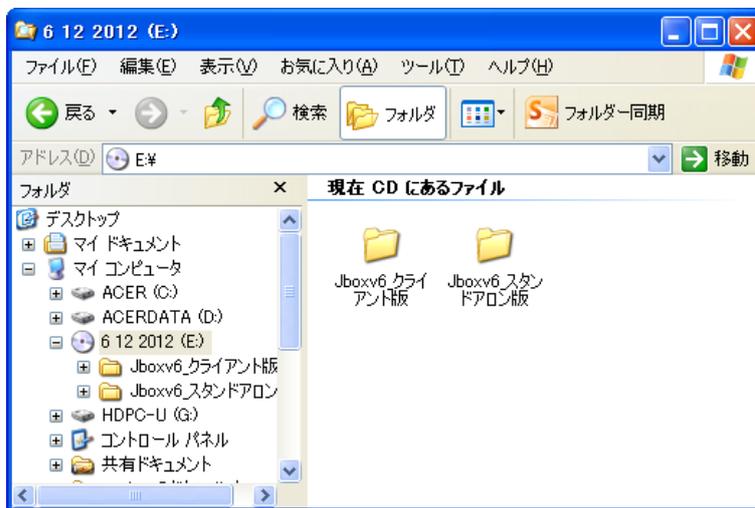
追加ライセンスを取得済みであれば、校内 LAN 上に情報 BOX の端末を追加して、複数台の端末を同時に使用することができます。

たとえば図書室が2つある学校や、職員室で読書傾向が見たい、図書準備室で作業を行いたいといった用途に適します。

1台目のコンピュータにはデータベースソフトとアプリケーションソフトがインストールされており、アプリケーションソフトは同じ PC で動作するデータベースソフトのデータにアクセスします。2台目の PC にはアプリケーションソフトだけをインストールし、1台目の PC で動作するデータベースソフトのデータにアクセスするようネットワークの設定を行います。

CD-ROM ドライブに情報 BOX インストール CD を入れて開くと以下のフォルダの中に「情報 BOXV6\_スタンドアロン版」と「情報 BOXV6\_クライアント版」（追加ライセンスがある場合のみ）があります。

自動的に開かない場合は [マイコンピュータ] から CD ドライブ (DVD ドライブ) を選択してください。



フォルダ「Jboxv6\_クライアント版」を開いて下さい。

CD-ROM がクライアントインストール専用である場合はクライアント版のみが表示されます。



フォルダ内の



をダブルクリックしてインストーラを起動してください。

次のようなメニューが現れます。



インストール方法はスタンドアロン&サーバプログラムと同様ですが、[データベース再接続]作業が必要になります。（リファレンスマニュアル参照）

#### ネットワークでの使用に関して重要なご注意

- サーバとして動かす PC でパーソナルファイアウォールが働いていると通信できません。通信ポート（port）は「5432」を使います。ファイアウォールではポートを開けてください。
- ファイアウォールは WindowsOS、ウイルス対策ソフトの両方に機能があります。両方確認してください。
- WindowsUpdate やウイルス対策ファイルの更新で、空けてあるはずの通信ポートが閉じてしまうことがありますので通信出来ない場合はその点にご注意ください。
- 必ず教育委員会、学校内のシステム管理者にお問い合わせの上行ってください。

## 情報 BOX のアンインストール

PC の移動などにもなうアンインストールについては以下の手順でお願いいたします。

### WindowsXP の場合

管理者権限を持つユーザー・アカウントで Windows にログオンします。

[コントロール パネル] から [プログラムの追加と削除] を表示させます。

情報 BOXV6 の「削除」をクリックしてください。

### Windows VISTA, Windows 7, Windows 8 の場合

管理者権限を持つユーザー・アカウントで Windows にログオンします。

[コントロール パネル] から [プログラムのアンインストール] を表示させます。

情報 BOXV6 をクリックし、「アンインストール」をクリックしてください。

アンインストール後に、インストールフォルダが残る場合がございます。その場合は、手動にて、

C:\¥jbox

を必要に応じて削除してください。

## 付録

改定 V42 対応 (2013.06.25)

- ・ 対応 OS の追加
- ・ インストール実行ファイル名の変更
- ・ ODBC ドライバーの更新
- ・ 復元ツールの対象外範囲の説明変更